

学習指導案例（各教科等を合わせた指導）

小学部 4年1組 生活単元学習 学習指導案

日時 令和〇年〇月〇日 〇:〇〇~〇:〇〇

場所 小学部4年1組 教室

指導者 〇〇 〇〇 (T1)

〇〇 〇〇 (T2)

1 単元名「目指せ！お買い物達人！」

2 単元設定の理由

(1) 児童の実態 [4年1組・4名]

本学級は、4年生の4名で構成されている。3名がASDを有しており、日常的なことをいろいろと話せる児童がいる一方、自発的な発語の少ない児童もあり、コミュニケーションや認知等の発達の状況は多様である。

金銭に関する実態としては、ほとんどの児童が、同種類の硬貨であれば指定された金額を用意することができる。しかし、指定された金額を種類の異なる硬貨を組み合わせることで用意することや、提示された金額の硬貨の組み合わせを複数用意することなどが課題である。

児童はこれまでの学習の中で、近くのコンビニエンスストアで好きなジュースやお菓子を買う経験をしてきた。買い物をする活動には、大変意欲的に取り組むことができ、お金を大切に扱う態度も身に付いてきている。家庭で買い物をする際の様子を保護者に聞いてみると、スーパーマーケットでの買い物については、一人でレジに並んで店員とやり取りをしながら支払いができる児童がいる一方、一人での買い物は難しいが、保護者が付き添えばかいものができる児童もいるため、児童がスーパーマーケットでの買い物に自信を持って取り組めるよう、経験を積み重ねる必要がある。

(2) 単元観

本単元は、児童にとって身近な活動である買い物について学習するに当たり、特別支援学校小学部学習指導要領の生活、算数、国語の、以下の内容を受けて設定している。

小学部 生活 2段階 内容

〔知識及び技能〕

キ 手伝い・仕事(イ)簡単な手伝いや仕事について知ること。

ク 金銭の扱い(イ)金銭の扱い方などを知ること。

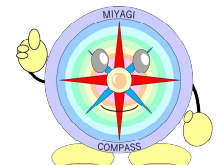
〔思考力、判断力、表現力等〕

ク 金銭の扱い(ア)身近な生活の中で、教師に援助を求めながら買い物をし、金銭の大切さや必要性について気付くこと。

小学部 算数 2段階 内容

〔知識及び技能〕

A 数と計算 ア(ア)㊦ものとももの対応させることによって、ものの個数を比べ、同等・多少が分かること。



学習指導案づくりの
20の視点

- ①活動がイメージしやすく、主体的に取り組みたくなる表現である。
- ②個別の指導計画とこれまでの学習状況を基に考えている。
- ③単元(題材)に対する児童生徒の興味・関心、発達段階、生活経験を分かりやすく書いている。
- ④単元(題材)を通して、児童生徒にどのような力を身に付けさせたいかに着目している。
- ⑤学習指導要領の「各教科の目標及び内容」を押さえている。

〔思考力、判断力、表現力等〕

A 数と計算 ア(イ)⑦数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味を持って生かすこと。

小学部 国語 2段階 内容

〔知識及び技能〕

ア 言葉の特徴や使い方(イ)日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。

〔思考力、判断力、表現力等〕

A 聞くこと・話すこと イ 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること。

買い物をするためには、商品名を読んだり、店員とのやり取りをしたりする必要があるのである（国語）。また、支払いの際には、お金の計算（算数）や金銭の扱い（生活）も大切になる。特に、家族に頼まれたものを買物する（生活）ということへの、児童の興味・関心は高い。金銭を用いた買物は、児童の将来の社会参加と自立的な生活を考えた上でも、重要度の高い活動であると考えられる。

そこで、本単元では、①金銭を扱うこと、②家族に頼まれたものを選んで購入すること、③店員とのやり取りの仕方などの学習を行うこと、を設定し、自分の力で買物ができることを目指していきたい。

(3) 指導観

指導に当たって、「家族に頼まれたものを買物に行く」という活動を取り入れることで、自分で買物ができた達成感と自己有用感を味わえるようにしたい。児童全員が見通しを持ちながら活動に参加できるように、ICT機器を活用し、写真を見たり手順をフラッシュカードで確認したりする。また、教師が見本となる行動を実際にやって見せることで、活動のイメージ化を図る。さらに、実際にスーパーマーケットへ行く前に、教室をスーパーマーケットに見立てて模擬買物学習を体験させ、自信を持って買物ができるようにしたい。そして、今後予定されている校外学習やお楽しみ会での買物学習に生かしたい。これらの学習を通して、児童が様々な生活場面においても、自信を持って主体的に活動に取り組めるようになることを期待している。

3 単元の目標

(1) 買物の手順を理解して、金銭を用いてお店で買物をするすることができる。
〔知識及び技能〕

(2) 店員と買物に必要なやり取りをすることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕

(3) 買物を通して、人と関わることのよさに気づき、手順に沿って、自分なりの方法で買物をしようとする。

「学びに向かう力、人間性等」

⑥児童生徒の学習上の特性を踏まえた指導の方針・手立てが分かる。

⑦「育成を目指す資質・能力」が明確である。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
買い物の手順を理解して、金銭を用いてお店で買い物をしている。	店員と買い物に必要なやり取りをしている。	手順に沿って、自分なりの方法で買い物をしようとしている。

※扱う教科の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(生活) 金銭の扱い方などを理解している。 (算数) 複数の硬貨を組み合わせて、金額を用意している。 (国語) 平仮名で書かれている商品名を読んでいる。	(生活) 金銭の大切さや必要性について気付いている。 (国語) 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をしている。	(生活) 教師に支援を求めながら買い物をしようとしている。 (算数) 金銭の価値に親しみ、買い物に必要な金銭処理をしようとしている。

㉔「育成を目指す資質・能力」に対する到達点が具体的である。

5 単元の指導計画（10時間扱い 本時4/10）

次	小単元名	時数	学習活動	扱う教科の内容
1	お買い物の計画を立てよう！	3	・買い物の目的を知る。 ・買い物に必要な学習を行う。	生活 キ手伝い・仕事 生活 ク金銭の扱い 算数 A数と計算
2	教室スーパーでお買い物チャレンジ！	4 (本時4/4)	・仮想のお店で、店員役とお客役に分かれての模擬買い物学習を行う。	生活 キ手伝い・仕事 生活 ク金銭の扱い 国語 A聞くこと・話すこと 国語 ア言葉の特徴や使い方 算数 A数と計算
3	レッツお買い物！	2	・実際のスーパーマーケットに行き、買い物をする。	生活 キ手伝い・仕事 生活 ク金銭の扱い 国語 A聞くこと・話すこと 算数 A数と計算
4	お買い物達人になるために！	1	・前時の買い物学習を振り返る。	生活 ク金銭の扱い 国語 A聞くこと・話すこと

㉕扱う教科の内容が明確に示されている。

6 単元の個別の目標

	単元の個別の目標	扱う教科の実態
D 児	買い物の流れが分かり、レジで店員とやり取りをしながら、自分一人で買い物をすることができる。	生活 3段階 ク 金銭の扱い 国語 2段階 A 聞くこと・話すこと 国語 2段階 ア 言葉の特徴や使い方 算数 3段階 A 数と計算
E 児	買い物の流れが分かり、レジで店員とやり取りをしながら、少ない支援で買い物をすることができる。	生活 3段階 ク 金銭の扱い 国語 2段階 A 聞くこと・話すこと 国語 2段階 ア 言葉の特徴や使い方 算数 2段階 A 数と計算

㉖扱う教科の内容が明確に示されている。

F 児	買い物に必要な店員とのやり取りを覚え、教師と一緒に買い物をすることができる。	生活 2段階 国語 2段階 国語 2段階 算数 2段階	ク 金銭の扱い A 聞くこと・話すこと ア 言葉の特徴や使い方 A 数と計算
G 児	買い物の見通しを持ち、教師の支援を受け入れながら、教師と一緒に買い物をすることができる。	生活 1段階 国語 2段階 国語 2段階 算数 1段階	ク 金銭の扱い A 聞くこと・話すこと ア 言葉の特徴や使い方 A 数と計算

7 本時の計画

(1) 小単元名「教室スーパーでお買い物チャレンジ！」

(2) 本時の目標

- ・決められた品物を選び、必要な金額を用意して買い物をすることができる。
〔知識及び技能〕
- ・店員役とお客役に分かれ、買い物のやり取りをすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕

(3) 本時の指導に当たって

次時のスーパーマーケットへ買い物学習に行く前に、教室をスーパーマーケットに見立てて模擬買い物学習を繰り返し体験させることで、自信を持って買い物ができるようにしたい。

本時では、レジ打ちの際にタブレット端末のアプリケーションを活用する。このアプリケーションはレジ打ちの機能を実際のお金とお金の画像をマッチングしながら実行できるため、支払いの仕組みや金種の理解を促すとともに、実際の買い物場面を想起しやすく、買い物遊びそのものを楽しみやすい。

学習のまとめとして、店員役とお客役に分かれての模擬買い物学習を行い、値段を見て同じ金額を出す活動や児童同士で金額が合っているかを確認合う活動を取り入れていく。その際、実際の硬貨を用意して行うことで、金銭を大切に扱うことについても学習していく。

(4) 児童の実態と個別の目標及び評価

	児童の実態	本時の個別の目標	手立て	評価規準
D 児	①慣れた店では、店員と言葉を交わしながらやり取りすることができるようになってきた。 ②買い物の手順が分かり、品物を買うことができる。	①レジで、店員役やお客役と言葉を交わしながらやり取りすることができる。 ②レジで、品物の値段に応じて支払いをすることができる。	①ペアで協力するよう声掛けをする。 ②不安な様子が見られたときは、写真の硬貨とマッチングするよう促す。	①自ら「お願いします。」「ありがとうございました。」などの言葉を添えてやり取りをしている。 ②ちょうどの額を一人で支払っている。

①活動がイメージしやすく、主体的に取り組みたくなる表現である。

⑩「単元（題材）の目標」から絞り込んだ内容になっている。

⑥児童生徒の学習上の特性を踏まえた指導の方針・手立てが分かる。

⑫個別の実態は、できること・できそうなことに注目し、本時の指導につながる観点で具体的である。

⑬個別の目標は、[どのよう](#)な力を身に付けさせたいかが具体的である。

⑭個別の目標を達成するための手立てが具体的である。

E 児	<p>①練習では落ち着いてできるが、本番になると緊張して手順を抜かしたり間違えたりすることがある。</p> <p>②金種の弁別はできるが、何百円単位のお金を読むことが難しい。</p>	<p>①一つ一つの手順を丁寧に確認しながらやり取りすることができる。</p> <p>②レジで、品物の値段に応じた金額やおつりを用意することができる。</p>	<p>①手順表で次の行動を確認するよう促す。</p> <p>②実物の硬貨を1枚ずつ写真と確認しながらマッチングするよう声を掛ける。</p>	<p>①次の行動を確認しながら、丁寧にやり取りしている。</p> <p>②写真の硬貨と実物をマッチングさせながら正しく支払いの用意をしている。</p>
F 児	<p>①品物を選ぶことはできるが、レジに並ぶことについては誘導が必要である。</p> <p>②身近な教師と簡単な日常会話をすることができる。</p>	<p>①品物を選んだ後に、自らレジに行くことができる。</p> <p>②レジで、店員役やお客役と身振りなどのやり取りをすることができる。</p>	<p>①手順表で次の行動を確認するよう促す。</p> <p>②緊張や不安を感じて活動が停滞した際には、適宜説明し直したり、落ち着くよう声を掛けたりする。</p>	<p>①次の行動を確認しながら、自分からレジに行っている。</p> <p>②品物やお金の受け渡しの場面で、相手に視線を向けながら行っている。</p>
G 児	<p>①品物の近くまで行けば、品物に手を伸ばすことがある。</p> <p>②発語は少ないが、自分の要求を教師の手を取って伝えることができる。</p>	<p>①品物コーナーで、自分で品物を選ぶことができる。</p> <p>②教師と一緒に、レジでのやり取りをすることができる。</p>	<p>①選べないでいるときは、タブレット端末で選ぶ品物を手元で見せる。</p> <p>②教師がそばにいるようにし、適宜教師のまねをするよう促す。</p>	<p>①品物コーナーで、品物をよく見て、自分から手を伸ばしている。</p> <p>②品物の受け渡しの場面で、教師のまねをし、相手に対して発声したり頭を下げる仕草を見せたりしている。</p>

(5) 指導過程（別紙1）

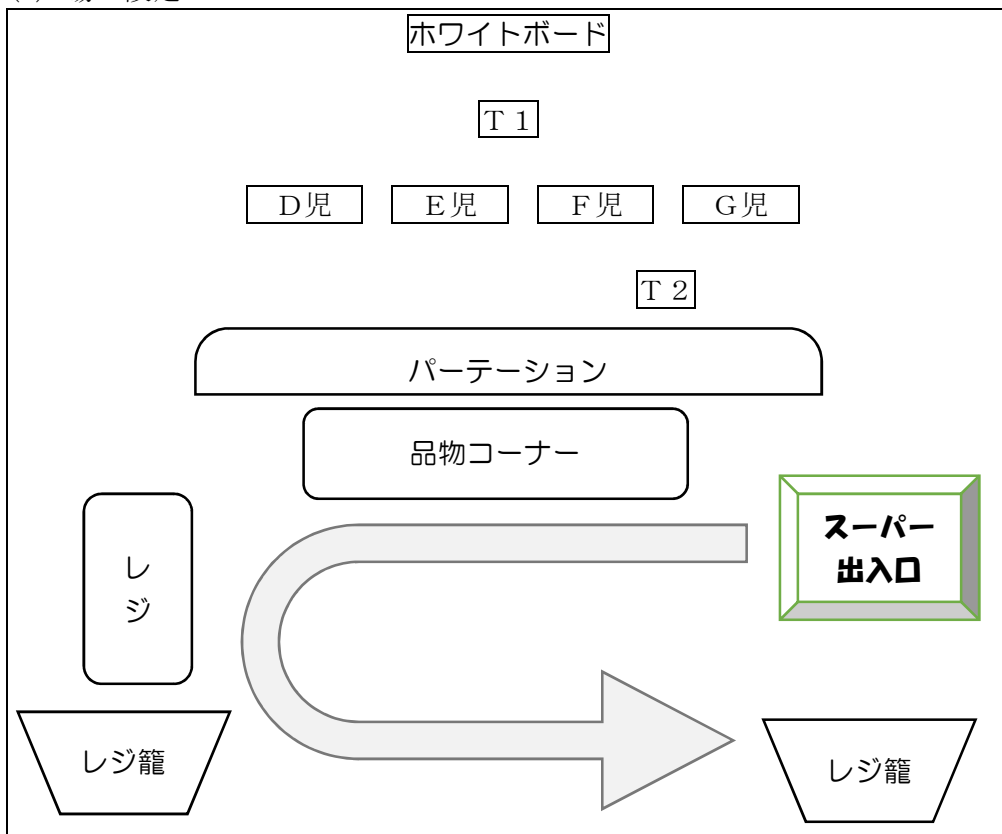
(6) 本時の評価規準

- ・決められた品物を選び，必要な金額を用意して買い物をしている。
(知識・技能)
- ・店員とお客役に分かれ，買い物の手順に応じたやり取りをしている。
(思考・判断・表現)

(7) 準備物

- ・教師：PC，プロジェクター，タブレット端末，学習カレンダー，学習計画表，顔写真カード，硬貨，品物，レジ籠，店員エプロン，レシート，バーコードリーダー，手順表，気持ちカード
- ・児童：財布，エコバッグ

(8) 場の設定



⑱「本時の目標」に対する到達点を具体的に押さえている。

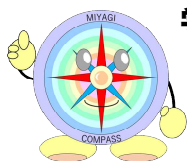
⑲教材・教具の工夫や使い方が具体的である。

⑳図や写真を用いて，イメージしやすいように示されている。

(5) 指導過程 (別紙1) ※関連する主な教科：生活 キ手伝い・仕事、ク金銭の扱い、国語 A聞くこと・話すこと、ア言葉の特徴や使い方、算数 A数と計算

段階	学習活動	指導上の留意点 (・→児童の活動 ○→教師の働き掛け ☆→評価)				準備物
		D児	E児	F児	G児	
導入 5分	1 始めのあいさつ	○日直はみんなを注目させるよう促す。 ・日直が挨拶をする。	・日直の合図に合わせて挨拶をする。	・日直の合図に合わせて挨拶をする。	○日直に注目するように促す(T2)。 ・日直の合図に合わせて挨拶をする。	
	2 本時の学習を知る 「教室スーパーでお買い物チャレンジ!」	・活動の流れを確認する。	・活動の流れを確認する。	・活動の流れを確認する。 ○学習計画表に着目させる(T2)。	・活動の流れを確認する。 ○学習計画表に着目させる(T2)。	学習カレンダー 学習計画表
展開 30分	3 お買い物チャレンジ ①動画や表を見て役割内容を確認する。 ②店員と客役を決める。 ③役割を交代する。	○買い物の手順を口頭で質問しながら確認する。 ・店員の準備をする。	○買い物の手順を口頭で質問しながら確認する。 ・店員の準備をする。	○動画に注目するように促す(T2)。 ・何を買うか確認する。	○動画に注目するように促す(T2)。 ・何を買うか確認する。	タブレット端末 プロジェクター 顔写真カード 品物 レジかご 硬貨 レシート バーコードリーダー 店員エプロン 手順表 エコバッグ
	〈店員A役〉 ①「いらっしゃいませ」を言う。 ②店員Bから受け取った商品と同じ画像を押す(タブレット端末)。 ③預かったお金を打ち込む(タブレット端末)。 ④おつりを用意する。 ⑤レシートとおつりを渡す。 ⑥「ありがとうございました」を言う。	〈店員A役〉 ○ペアで協力するよう声掛けをする。 ☆自ら「お願いします。」「ありがとうございました。」などの言葉を添えてやり取りすることができたか。	〈店員B役〉 ○適宜、手順表を見るよう促したり、活動をやり直しさせたりする。 ☆手順表で次の行動を確認しながら、丁寧にやり取りすることができたか。	〈お客役〉 ○商品を選んだ後に、手順表で次の行動を確認させる(T2)。 ☆手順表で次の行動を確認しながら、自分からレジに行くことができたか。	〈お客役〉 ○選べないでいるときは、タブレット端末で選ぶ品物を手元で見せる。(T2) ☆品物コーナーで、品物をよく見て、自分から手を伸ばす様子が見られたか。	
	〈店員B役〉 ①「いらっしゃいませ」を言う。 ②商品にバーコードリーダーを当て、一つずつ店員Aに渡す。 ③商品をエコバッグに入れて客に渡す。 ④「ありがとうございました」を言う。	・何を買うか確認する。	・何を買うか確認する。	・店員の準備をする。	・店員の準備をする。	
	〈お客役(2名)〉 ①店に入り、レジかごを持つ。 ②商品を選んでかごに入れて、レジに出す。 ③お金を支払う。 ④商品とレシート、おつりを受け取る。 ⑤店を出る。	〈お客役〉 ○不安な様子が見られたときは、実物の硬貨と写真の硬貨をマッチングするよう促す(T2)。 ☆ちよほどの額を一人で支払うことができたか。	〈お客役〉 ○実物の硬貨と写真の硬貨を1枚ずつ写真と確認しながらマッチングするよう声を掛ける(T2)。 ☆実物の硬貨と写真の硬貨をマッチングさせながら正しく用意することができたか。	〈店員A役〉 ○緊張や不安を感じて活動が停滞した際には、適宜、説明し直したり、落ち着くよう声を掛けたりする。 ☆品物やお金の受け渡しの場面で、相手に視線を向けながら行うことができたか。	〈店員B役〉 ○教師がそばにいるようにし、適宜、教師のまねをするよう促す。 ☆品物の受け渡しの場面で、教師のまねをして、相手に対して発声したり頭を下げる仕草を見せたりすることができたか。	

3-18	終結	<p>4 本時の振り返り</p> <p>①写真で学習を振り返る。</p> <p>②感想を発表する。</p> <p>③一人一人の頑張った点や良かった点を共有する。</p>	<p>○友達の頑張りにも気付けるよう働き掛ける。</p> <p>・自分の頑張ったことを発表する。</p> <p>○買い物ができたことを称賛し、共に喜び合えるよう言葉を添える。</p>	<p>○友達の頑張りにも気付けるよう働き掛ける。</p> <p>・自分の頑張ったことを発表する。</p> <p>○インタビュー形式で、発表を促す。</p> <p>○買い物ができたことを称賛し、共に喜び合えるよう言葉を添える。</p>	<p>○写真に注目するように促す（T2）。</p> <p>・自分の頑張ったことを発表する。</p> <p>○安心して発表できるよう、教師が近くで対応する（T2）。</p> <p>○買い物ができたことを称賛し、共に喜び合えるよう言葉を添える。</p>	<p>○写真に注目するように促す（T2）。</p> <p>・気持ちカードで頑張ったことを発表する。</p> <p>○気持ちカードを活用し、二択で気持ちを確認する（T2）。</p> <p>○買い物ができたことを称賛し、共に喜び合えるよう言葉を添える。</p>	気持ちカード
	10分	5 次時の予定の確認	<p>・次時は、実際にスーパーマーケットに買い物に行くことを確認する。</p> <p>○学習カレンダーに着目させ、次回への期待を高められるようにする。</p>	<p>・次時は、実際にスーパーマーケットに買い物に行くことを確認する。</p> <p>○学習カレンダーに着目させ、次回への期待を高められるようにする。</p>	<p>・次時は、実際にスーパーマーケットに買い物に行くことを確認する。</p> <p>○学習カレンダーに着目させ、次回への期待を高められるようにする（T2）。</p>	<p>・次時は、実際にスーパーマーケットに買い物に行くことを確認する。</p> <p>○学習カレンダーに着目させ、次回への期待を高められるようにする（T2）。</p>	学習カレンダー
		6 終わりのあいさつ	<p>○日直はみんなを注目させるよう促す。</p> <p>・日直が挨拶をする。</p>	<p>・日直の合図に合わせて挨拶をする。</p>	<p>・日直の合図に合わせて挨拶をする。</p>	<p>○日直に注目するように促す（T2）。</p> <p>・日直の合図に合わせて挨拶をする。</p>	



学習指導案づくりの20の視点

- ⑮ 教師の動きやT・T間の役割が明確である。
- ⑯ 授業全体の流れが分かり、中心的な学習活動が明確である。
- ⑰ 「育成を目指す資質・能力」が身に付くために、「主体的・対話的で深い学び」の視点で指導や支援を考えている。

学習指導案様式例（各教科等を合わせた指導）【解説ナビ】

〇〇学校 〇学部 〇年〇組 〇〇〇 学習指導案

・特別支援学級の場合、「〇学級（学級名）〇〇科」と記入します。

日時 令和〇年〇月〇日〇：〇〇～〇：〇〇
場所 〇学部〇年〇組 教室
指導者 〇〇 〇〇（T1）
〇〇 〇〇（T2）

1 単元（題材）名「〇〇〇〇〇〇」 ・児童生徒が活動をイメージしやすく、意欲が高まる表現で記入します。

2 単元（題材）設定の理由

(1) 児童（生徒）の実態 [〇年〇組・〇名]

- ・単元（題材）に関わる児童生徒の実態や興味・関心等について記入します。
- ・「〇〇な実態だから、△△を課題に考えている」というように、学習集団の実態と課題を整理して記入します。
- ・扱う各教科等の実態や現在の課題だけでなく、良い点等も記入します。

このような実態で、このような良い点や課題がある児童生徒たちなので、

(2) 単元（題材）観

本単元（題材）は、〇〇を学習するに当たり、特別支援学校〇学部学習指導要領〇〇科、〇〇科…の、以下の内容を受けて設定している。

〇学部 〇〇科 〇段階 内容

※ここに内容を記入する。

・単元（題材）で扱う、各教科の学習指導要領の内容を転記します。

〇学部 〇〇科 〇段階 内容

本単元（題材）では、……………

- ・単元（題材）の特徴を記入します。
- ・単元（題材）に対する考え方や、なぜその教材を扱うのかという意義や価値を記入します。
- ・「各教科等を合わせた指導」の場合は、設定した単元（題材）で扱う教科等についても記入することで、教科の学習を意識することができます。

このような意義のある単元（題材）を設定し、

(3) 指導観

- ・児童生徒の実態、単元（題材）観を基に、目標達成のためにどのような学習活動や指導の工夫をするのかを具体的に記入します。
- ・教材・教具の工夫、教師の協力体制（T・T）、学習環境について記入します。

目標を達成するために、このような指導・支援を工夫していきます。

3 単元（題材）の目標

- (1) ……できる。〔知識及び技能〕
- (2) ……できる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- (3) ……しようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

4 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
……………している。	……………している。	……………しようとしている。
・「3 単元（題材）の目標」に対して、児童生徒のどのような姿が見られれば、「おおむね満足できる」と考えるのかを具体的に記入します。		

※扱う教科の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
（教科名）……………している。	（教科名）……………している。	（教科名）……………しようとしている。
（教科名）……………している。	（教科名）……………している。	（教科名）……………しようとしている。

・「※扱う教科の評価規準」を考えておくことで、扱う教科の個別の評価を行う際の参考となります。

5 単元（題材）の指導計画（○時間扱い 本時○／○）

次	小単元（題材）名	時数	学習活動	扱う教科の内容
1				
2				
3				
4				

- 目標達成のために、単元（題材）全体の主な学習活動や指導の流れが明確になるよう簡潔に記入します。
- 扱う教科の内容を意識することで、その時間で児童生徒にどんな力を身に付けさせたいかを考えることができます。
- 扱う教科の内容の欄は、「生活 キ手伝い・仕事」などと記入します。内容のまとまりを記入し、段階は記入しません。

6 単元（題材）の個別の目標

	単元（題材）の個別の目標	扱う教科の実態
A 児		
B 児		
C 児		

- 単元（題材）で扱う内容に関する児童生徒の実態と個別の目標を記入します。
- 「3 単元（題材）の目標」を基に、単元（題材）を通して「身に付けさせたい資質・能力」を具体化した「単元（題材）の個別の目標」を設定します。
- 扱う教科の実態には、段階まで記入します。
- 扱う教科の実態を踏まえ、「単元（題材）の個別の目標」を記入します。

7 本時の計画

(1) 小単元（題材）名「○○○○」

• 児童生徒が活動をイメージしやすく、意欲が高まる表現で記入します。

(2) 本時の目標

- ……できる。〔知識及び技能〕
- ……できる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- 「3 単元（題材）の目標」を基に、各教科等を合わせた指導の目標を具体的に記入します。
 ・ ……しようとする。「学びに向かう力、人間性等」

(3) 本時の指導に当たって

- 本時の目標達成のために、本時の指導でどのような学習活動や指導の工夫をするのかを具体的に記入します。
- 教材・教具の工夫、教師の支援体制（T・T等）、学習環境の工夫等について記入します。

(4) 児童（生徒）の実態と個別の目標及び評価規準

	児童（生徒）の実態	本時の個別の目標	手立て	評価規準
A 児				
B 児				
C 児				

- 実態を書く際には、できるだけ否定的な表現は避け、どういう支援があればできるのかを記入します。
- 本時の個別の目標は、「(2) 本時の目標」を基に育成を目指す資質・能力を記入します。その際、「個別の指導計画」を基に自立活動の指導との関連を意識しながら設定します。
- 手立ては、個々の実態を踏まえ、具体的に記入します。
- 評価規準は、個別の目標に対して、児童生徒のどのような姿が見られれば、「おおむね満足できる」と考えるのかを具体的に記入します。

(5) 指導過程

段階	学習活動	指導上の留意点 (・→児童生徒の活動 ○→教師の働き掛け ☆→評価)			準備物																										
		A児	B児	C児																											
導入 ○分	<ul style="list-style-type: none"> 「学習活動」は、学級で行う大まかな活動を記入します。 「指導上の留意点」は、児童生徒の具体的な活動や教師が行う指導・支援を記入します。 授業の流れ、児童生徒や教師の動きが分かるように記入します。 T・Tの場合は、各教師の役割や児童生徒への関わり方を分かるように記入します。 どの学習場面において、どのような方法で児童生徒の学習状況を評価するのかを明確に示します。 																														
展開 ○分	<ul style="list-style-type: none"> 指導過程の書き方は様々あるので、目的に応じて使い分けます。 (本例は、個別の支援が分かりやすい指導過程) ○グループごとの支援が分かりやすい指導過程の例 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 20%;">学習活動</th> <th style="width: 40%;">Aグループ (A児, B児)</th> <th style="width: 40%;">Bグループ (C児, D児)</th> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○教材・教具等の指導の工夫が分かりやすい指導過程の例 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2" style="width: 20%;">学習活動</th> <th colspan="2" style="width: 60%;">作業内容と指導上の留意点</th> <th rowspan="2" style="width: 20%;">教材・教具等</th> </tr> <tr> <th style="width: 30%;">○○作業チーム A児, B児</th> <th style="width: 30%;">△△作業チーム C児, D児</th> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○教師の動きが分かりやすい指導過程の例 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 20%;">学習活動</th> <th style="width: 15%;">T 1</th> <th style="width: 15%;">T 2</th> <th style="width: 15%;">T 3</th> <th style="width: 15%;">T 4</th> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>					学習活動	Aグループ (A児, B児)	Bグループ (C児, D児)				学習活動	作業内容と指導上の留意点		教材・教具等	○○作業チーム A児, B児	△△作業チーム C児, D児					学習活動	T 1	T 2	T 3	T 4					
学習活動	Aグループ (A児, B児)	Bグループ (C児, D児)																													
学習活動	作業内容と指導上の留意点		教材・教具等																												
	○○作業チーム A児, B児	△△作業チーム C児, D児																													
学習活動	T 1	T 2	T 3	T 4																											
終結 ○分																															

(6) 本時の評価規準

- ・ …… 「(2) 本時の目標」で育成を目指す資質・能力 …… している。(知識・技能)
- ・ …… に沿って、本時の学習活動を踏まえ、具体的 …… している。(思考・判断・表現)
- ・ …… に記入します。 …… しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

(7) 準備物

- ・ 教師： ……
- ・ 児童（生徒）： …… 教師，児童生徒が準備するものを具体的に記入します。

(8) その他

- ・ 本時の学習活動に必要な、「場の設定」や「板書計画」等を必要に応じて記入します。
- ・ 児童生徒や教師の位置，教材・教具の位置，環境整備の工夫等が分かるように記入します。

〇〇学校 〇学部 〇年〇組 〇〇〇 学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 〇:〇〇~〇:〇〇

場 所 〇学部〇年〇組 教室

指導者 〇〇 〇〇 (T1)

〇〇 〇〇 (T2)

1 単元（題材）名「〇〇〇〇〇〇〇〇〇」

2 単元（題材）設定の理由

(1) 児童（生徒）の実態 [〇年〇組・〇名]

(2) 単元（題材）観

本単元（題材）は、〇〇を学習するに当たり、特別支援学校〇学部学習指導要領〇〇科、〇〇科…の、以下の内容を受けて設定している。

〇学部 〇〇科 〇段階 内容
 ※ここに内容を記入する。

〇学部 〇〇科 〇段階 内容
 ※ここに内容を記入する。

本単元（題材）では、……………

(3) 指導観

3 単元（題材）の目標

- (1) ……………できる。〔知識及び技能〕
- (2) ……………できる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- (3) ……………しようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

4 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
……………している。	……………している。	……………しようとしている。

※扱う教科の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(教科名) ……………している。	(教科名) ……………している。	(教科名) ……………しようとしている。
(教科名) ……………している。	(教科名) ……………している。	(教科名) ……………しようとしている。

5 単元（題材）の指導計画（○時間扱い 本時○／○）

次	小単元（題材）名	時数	学習活動	扱う教科の内容
1				
2				
3				
4				

6 単元（題材）の個別の目標

	単元（題材）の個別の目標	扱う教科の実態
A 児		
B 児		
C 児		

7 本時の計画

(1) 小単元（題材）名「○○○○○○○○○」

(2) 本時の目標

-できる。[知識及び技能]
-できる。[思考力，判断力，表現力等]
-しようとする。「学びに向かう力，人間性等」

(3) 本時の指導に当たって

(4) 児童（生徒）の実態と個別の目標及び評価

	児童（生徒）の実態	本時の個別の目標	手立て	評価規準
A 児				
B 児				
C 児				

(5) 指導過程

段階	学習活動	指導上の留意点 (・→児童生徒の活動 ○→教師の働き掛け ☆→評価)			準備物
		A児	B児	C児	
導入 ○分					
展開 ○分					
終結 ○分					

(6) 本時の評価規準

- ・している。(知識・技能)
- ・している。(思考・判断・表現)
- ・しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

(7) 準備物

- ・ 教師：
- ・ 児童（生徒）：

(8) その他

※「場の設定」や「板書計画」等を必要に応じて記入する。